



開所日時 月～金曜日 15:00～18:00  
土曜日 10:00～13:00



### 買い物のエピソード

#### ▼行き先に、迷う

2月の第3週は移転後初の「買い物」週間でした。財布を持っておやつを買いに出かける、子ども達にとって人気のプログラムです。文京で実施していた頃はもっぱらスーパーか駄菓子屋を行き先としていましたが、残念なことに赤見の建物の近くに同じような店舗がありません。でもコンビニなら2件ありました。

#### ▼コンビニ A

早速店長さんにご挨拶に伺うと「わかりました！全スタッフに伝えておきますので、是非いらしてください！」とのありがたいお言葉。さらにコースも何より近いので(約450m)より多くの子が参加できます。スーパーに比べると金額はチョット高いですが・・・刺激が少なく「わかりやすい」のでとてもスムーズに買い物ができました。

#### ▼コンビニ B

少し遠くて交通量も多いコンビニ B へは、中高生がチャレンジ。事前に地図をみせて「安全なコース」を自分で考えて書き込んでもらい、実際にそのコースを歩いてもらいました。子どもによって選ぶ道が違い、それぞれの個性を感じました。

日によって商品陳列が変わることを知らず、事前に見せた写真の場所に商品が無くてあたふたしてしまったり、スムーズに買い物ができていて油断していたら、レジでお金を募金箱に入れてしまったりと失敗や反省もありましたが、子ども達が「自分で好きなものを選んで買う」体験が出来るよう、今後もプログラムに取り入れたいと思います。



盆栽の梅の花がさきました

### ヘルパーの失敗

2月の定例勉強会の意見交換会の中で『ヘルパーの失敗談』を出してもらったところ、いろいろな失敗が上がりました。

- ・火の元を確認したが、心配になって、また利用者宅に戻った。
- ・ケア中に物を破損した。
- ・移送中に利用者の話に気を取られ、信号を見落とした。
- ・ケア先でいつもやらなければならない事を忘れてしまった。
- ・ケア時間を忘れて、遅れてしまった。

失敗は誰にでもあるけれど、その失敗を繰り返さないためにも反省をして、何かの手を打つことが必要です。大きな事故になるのは、たくさんの失敗(ひやり・はっとすること)の氷山の一角でしかないと言われています。

事故につながる失敗は別として、失敗の中には利用者の許容範囲を超えて信頼関係を失くす場合もあり、利用者もヘルパーも双方に気まずい思いとなってしまう。介護現場は人と人との人間関係からなる、命をも預かる重い仕事であることを受け止めて介護にあたるべきだと思います。

### 訪問介護サービス適正化事業の終了

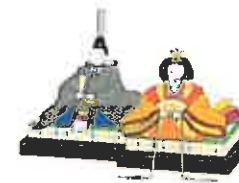
平成18年より、訪問介護サービスの利用者宅にヘルパー用タイムカード読み取り機を設置し、訪問介護員の訪問した実績とケアプラン及び請求実績とを突き合わせ確認が行われていましたが、概ね適正に行われていることから、平成23年2月末をもって終了することとなりました。

3月中旬ごろに撤去作業が実施されます。



### ミニデイだより

#### ひな祭り



♪あかりをつけましょ ぼんぼりに～♪  
今年は広場に雛飾りと桃の花を飾り、ひな祭りのイベントを行いました。雛飾りがあることに気付くと、広場に入ってすぐ、みなさん席に着かれず、飾りを囲んで「昔は飾りつつたけどね～」「きれいだね～」と話が盛り上がりました。

2月22日は、色紙と色とりどりの折り紙、和紙を使って壁掛け用の雛飾りを作りました。見本の絵を見ながら、はさみで折り紙を切り貼りし、それぞれ個性溢れる華やかな飾りが完成しました。中には20歳になるお孫さんにプレゼントすると、お手紙を添えられる方もみえました。出来上がった作品を広場の壁に飾り、とても賑やかな雰囲気の中、全員で春の歌をピアノに合わせて歌いました。

まだまだ寒い日が続きますが、笑って歌ってミニデイには少し早い春がやってきました。



### 心づれづれ



#### 私のふる里

協力会員 上杉勝治

♪兔追いしかの山 小鮒釣りしかの川♪  
私のふる里は、越中は富山の東の端、朝日町泊という処です。立山連邦、黒部川の清流、更に海の幸に恵まれた富山湾と自然に恵まれた田舎町です。天下の難所として旅人を困らせた「親不知・子不知」までは4km程の所です。

そんな田舎町ですが、ステキな名所があります。ヒスイ海岸と呼ばれる美しい浜が3km程も続いています。大小の石に混じって、文字通りヒスイの原石がこの浜に打ち上げられるのです。長野県と新潟県境の白馬山系の山々から出た原石は、数知れない多くの小石とともに姫川に流れ出ます。そして日本海に至り、東からの強い潮の流れに運ばれ、この美しい浜に打ち上げられるのです。極めてまれですが、コブシ大の原石を見つける人がいるそうです。

この小石、一つ一つが信州の山を離れたのはいつだったのだろう...山から川に、川から海に、『安寿と厨子王』の哀しい物語を秘めた親不知の岬を越え、はるばるこの浜にたどりついて、打ち上げられるまでの長い長い道のりを想うと、僕は柄になく悠久のロマンを感じます。今年の夏休みは孫たちと久しぶりにふる里に帰り、温泉につかり、美味しい魚を食べサザエを採ったり、でっかいヒスイを見つけるゾ！

♪夢はいつもめぐりて～忘れがたきふる里♪



絵：前橋春代